

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



平成27年度 ボランティア養成講座スタート



- ・天王みどり学園では、本校の児童生徒、卒業生をサポートする人材を増やすために、「ボランティア養成講座」を開講している。2回の講義を受講し、1回のボランティア活動を体験した人には、ボランティア認定証を発行している。
- ・今年度1回目は4月20日に、来月本校の運動会にボランティアをお願いしている秋田西高等学校で実施した。約100名の受講者があり、会場は生徒のやる気と熱気に包まれた。



1 主なプレゼン資料

障害のとりえ方

私たちの代わりに
障害を乗り越えてくれた人たち

柳澤 桂子
(生命科学者)

全人類の遺伝子プールというものがある、その中で遺伝子が突然変異を起こして多様化していくことが、この地球に適応していく手だてなのです。
多様化する時には、必ずある程度で障害や病気が出ます。人類としては、しかたのないことなのです。
ある割合で障害や病気を抱えた人たちが生まれるが、その人たちは私たちの代わりに障害や病気を乗り越えてくれたのです。だからみんなで、そうした人たちを支え、一生懸命長く生きていかなければなりません。

みんなちがって みんないい

みどり学園の子どもたち 1

「なにをして あそぶ？」

「どっちなあそび？」

できることはひとりです

「それを はこぼろう」 ⇒ 「つくえを はこぼろう」

分かる言葉で 視覚情報を活用する

まとめにかえて

～障害のハードルを越える3つの要素～

- 1 本人の自覚・自覚
差別・偏見をはね返す強さ 自己肯定感 自己理解
- 2 第三者のサポート
取っ手 盲導犬 点字 手話 補聴器 パソコン スロープ等
- 3 周囲の人の理解(心のバリアを取り除く)
支える・受け入れる・認める人の存在

心を開いて よい言葉を 笑顔で!

2 生徒の感想

・障害についての考え方が少し変わりました。障害のある人たちは、私たちの代わりに障害を引き受けてくれたという言葉をおぼろげに忘れないようにしたいと思います。私は小学校、中学校の頃に自閉症のクラスメイトがいました。この講座をもっと早く理解していたら、その人に優しく接することができたと思います。今後生きていく上で、障害者に会ったら、今日の講座で学んだことを忘れずに接することができればと思います。

・個性と障害の区別をしっかりとし、それを理解した上で「みんな違ってみんないい」という考えを基に、私たちがそのような社会を作っていくことが必要だと思いました。障害には様々な種類があり、私たちが分からないこともたくさんあることを知りました。でも、その障害を少しでもやわらげるための工夫があり、子どもたちが安心して生活できるんだと思いました。このようなことをもっと多くの人に知ってもらうことで、障害者も住みやすい社会になると思いました。

・障害者と自分は遠い存在だと思っていました。しかし、西高の近くには天王みどり学園があり、「特性≠障害」ということを聞いて、身近な存在に感じました。天王みどり学園の先生たちは障害のある人たちに分かりやすく教育しているのを感じました。将来、どのような職業に就くか分かりませんが、今日はボランティアに興味をもつよい機会になりました。

・天王みどり学園では、社会に出て行く準備をしていることを知ることができてよかったです。言葉が伝わらなくてもジェスチャーでコミュニケーションがとりやすくなるのが分かりました。周囲の人々の理解があつてこそ、障害のある人との共生が成り立っていることが分かりました。

・私は障害者にマイナスのイメージがありました。今日の話聞いて、マイナスのイメージだけではないことが分かりました。運動会では、「あれ」「そこ」などを使わずに、具体的な言葉を掛けることにしたいと思います。

- ・高校生がボランティアに関心をもったり、障害のことについて新聞に投書するケースが増えたりしており、障害への理解が着実に進んでいる。さらに、心のバリアを取り除くためには、このような養成講座や障害のある人と直接触れ合うことが必要である。それが共生社会につながっていく。